

## 化学療法連携シートに掲載する主な副作用評価項目

副作用評価項目／Grade	G1	G2	G3	G4
白血球減少(WBC)	4.0-3.0×10 <sup>3</sup> /μ L	3.0-2.0×10 <sup>3</sup> /μ L	2.0-1.0×10 <sup>3</sup> /μ L	<1.0×10 <sup>3</sup> /μ L
好中球数減少	2000-1500 /μ L	1500-1000 /μ L	1000-500 /μ L	<500 /μ L
貧血(Hb)	11.0-10.0 g/dL	10.0-8.0 g/dL	8.0-6.5 g/dL	<6.5 g/dL
血小板数減少(PLT)	13.0-7.5×10 <sup>4</sup> /μ L	7.5-5.0×10 <sup>4</sup> /μ L	5.0-2.5×10 <sup>4</sup> /μ L	<2.5×10 <sup>4</sup> /μ L
悪心	摂食習慣に影響のない食欲低下	脱水または栄養失調を伴わない経口摂取量の減少	食事、水分の経口摂取量が不十分な状態	-
嘔吐	24時間に1-2回の嘔吐	24時間に3-5回の嘔吐	24時間に6回以上の嘔吐	生命を脅かす状態
食欲不振	摂食週間の変化を伴わない食欲低下	栄養失調を伴わない経口摂取量の減少	体重減少または栄養失調を伴う経口摂取量の減少	生命を脅かす状態
味覚異常	食生活の変化を伴わない味覚変化	食生活の変化を伴う味覚変化	-	-
便秘	不定期に便軟化薬/緩下薬/食事の工夫/浣腸を使用する便秘	定期的に便軟化薬/緩下薬/浣腸を使用する持続的な便秘	摘便を要する頑固な便秘	生命を脅かす状態
下痢	べースと比べて<4回/日の排便回数の増加	べースと比べて4-6回/日の排便回数の増加	べースと比べて7回≦/日の排便回数の増加	生命を脅かす状態
口内乾燥	食生活の変化を伴わない唾液量の低下	食生活に影響のある唾液量の低下	十分な経口摂取が不可能な唾液量の低下	-
口腔粘膜炎	治療を要さない軽度の症状	疼痛はあるが経口摂取はできる	経口摂取に支障がある高度の疼痛	生命を脅かす状態
呼吸困難	中等度の労作に伴う息切れ	軽度の労作に伴う息切れ	安静時の息切れ/生活動作に制限を要する息切れ	生命を脅かす状態
末梢性感覚神経障害	軽度の痺れ	痺れはあるが、日常生活に支障がない	痺れが強く、日常生活が制限される(ボタンかけなど)痺れ	生命を脅かす状態
脱毛	遠くからでは分からない脱毛	容易に分かる脱毛	-	-
疲労	休息により軽快する疲労	休息によって軽快しないが日常生活はできる疲労	日常生活が制限される疲労	-
不眠	軽度の入眠障害	中等度の入眠障害	高度の入眠障害	-
不安	治療を要さない軽度の症状	不安はあるが、日常生活に支障がない	日常生活が制限される強い不安	生命を脅かす状態
皮膚乾燥	体表面積の<10% 紅斑やそう痒は伴わない	体表面積の10-30% 紅斑やそう痒を伴うが日常生活はできる	体表面積の30%≦ 紅斑やそう痒を伴い日常生活に支障がある	-
そう痒症	局所治療を要する軽度または限局性の症状	内服治療を要する広範囲の掻破による皮膚の変化がある症状	副腎皮質ホルモンなどの治療を要し日常生活や睡眠に支障がある	-
ざ瘡様皮疹	体表面積の<10% 紅色丘疹や膿疱	体表面積の10-30% 紅色丘疹や膿疱 社会心理学的な影響を伴うが日常生活はできる	体表面積の30%≦ 紅色丘疹や膿疱 日常生活に支障がある	-
爪囲炎	爪壁の浮腫や紅斑、角質の剥脱	局所・内服治療が必要な疼痛、爪壁の浮腫や紅斑、滲出液や爪の分離を伴う	外科的治療や点滴治療を要する	-
手足症候群	疼痛を伴わない皮膚の変化または皮膚炎 (例: 紅斑、浮腫、角質増殖症)	疼痛を伴う皮膚の変化 (例: 角質剥離、水疱、出血、浮腫、角質増殖症)	疼痛を伴う高度の皮膚の変化があり、日常生活に支障がある (例: 角質剥離、水疱、出血、浮腫、角質増殖症)	-